

分野	専門分野	単位数	1	時間数	15
授業科目	看護管理	学年時期	3年 前期		
担当講師 (実務経験)	非常勤講師（看護部長）				
科目目標	対象に安全で安楽な医療サービスを提供できるように患者を中心とした看護管理の重要性を理解する。				
回数	時間	授業内容	授業方法	担当講師	
1	2	看護管理の定義 マネジメントプロセスとサイクル ナイチンゲールの小管理より	講義	看護部長	
2	2	看護職と法	講義・演習	看護部長	
3	2	看護マネジメント 組織化 理念	講義	看護部長	
4	2	組織と職位、職務、人材フロー 看護サービス提供方式	講義	看護部長	
5	2	看護サービス提供方式 人事労務管理	講義	看護部長	
6	2	組織の中の人間関係 動機付け、リーダーシップ、コミュニケーション	講義・演習	看護部長	
7	2	ケアの質の評価 安全の保証 ヒューマンエラー	演習	看護部長	
8	1	終了試験	試験	看護部長	
評価方法	終了試験の成績(100点満点)で評価する				
評価基準	60点以上で合格 60点未満の場合は再試験(1回のみ)				
参考文献	系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[1] 看護学概論 医学書院 系統看護学講座 専門分野 看護の統合と実践[1] 看護管理 医学書院				
備考	看護を提供するにあたって、人的資源、物的資源、財的資源が必要であることは、すでに看護学概論で学習している。看護管理では、これらの資源をどのように有効活用するかという看護管理について学ぶ。そこで、今までの学内での学習や臨地実習での経験を想起しながら、看護の場では、対象者を中心にチームや組織を作り動いている。管理者だけでなくケアを提供しているすべての看護職が担う役割であることを意識できるようにすすめる				

分野	専門分野		単位数	1	時間数	20
授業科目	災害看護・国際看護		学年時期	3年 前期		
担当講師 (実務経験)	①非常勤講師(災害拠点病院DMAT隊員)					
	②非常勤講師(熊本赤十字病院国際医療救援部看護師)					
	③専任教員					
科目目標	1. 災害直後から支援できる看護の基礎的知識について理解することができる。 2. 大規模災害時の基本的な救急医療について学び、看護に必要な知識・技術の基礎を理解する。 3. 国際看護活動の実際を知る。					
回数	時間	授業内容	授業方法	担当講師		
1	2	災害の定義 災害の種類と健康障害 災害医療の特徴 災害と情報 法による減災 災害が人々の生命や生活に及ぼす影響	講義	③		
2	2	災害看護の定義と役割 災害看護の特徴と看護活動	講義	③		
3	2	災害サイクルに応じた活動現場別の災害看護	講義	③		
4	2	災害急性期・亜急性期 トリアージ 応急処置(三角巾による創傷処置)	講義・演習	①		
5	2	大規模災害時のトリアージ 救命応急処置	演習	①		
6	2	大規模災害時のトリアージ 救命応急処置	演習	①		
7	2	災害慢性期・復興期、静穏期の看護支援	講義・演習	①		
8	2	災害とこころのケア	講義	①		
9	2	国際看護活動	講義	②		
10	2	まとめと終了試験	試験	①・②・③		
評価方法	終了試験の成績(①・②・③の合計点)及び出席状況・授業態度で総合的に評価する					
評価基準	60点以上で合格 60点未満の場合は再試験(1回のみ)					
参考文献	系統看護学講座 専門分野 看護の統合と実践[3] 災害看護学・国際看護学 医学書院					
備考	災害時の看護活動はどのようなものか、災害時の看護の役割について、講義演習以外でも、防災訓練参加や救急蘇生法受講などを通して学ぶことができる。					

分野	専門分野		単位数	1	時間数	30
授業科目	医療安全管理		学年時期	2年 前期		
担当講師 (実務経験)	①非常勤講師（医療安全管理者） ②専任教員					
科目目標	ヒューマンエラーに対する理解を深め、安全な看護実践のための対策を考えることができる。					
回数	時間	授業内容	授業方法	担当講師		
1	2	医療安全の目的 人間の行動特性とエラー 医療事故・医療過誤の概念 ヒューマンエラーの概念	講義	②		
2	2	医療安全施策と「医療の質の評価 国の医療安全の取り組み 医療事故の定義・分類 患者影響レベル 看護師の法的責任 守秘義務	講義	②		
3	2	看護・医療事故の種類と事故要因 医療事故判例	講義	②		
4	2	医療事故の分析・種類・目的 エラーの要因	講義・演習	②		
5	2	注射のエラー、エラーの発生要因 注射の事故はなぜ重大事故につながるのか	講義	②		
6	2	医療機関における医療安全対策 看護学生の実習と安全	講義	②		
7	2	医療安全管理の実際 医療事故後の対応	講義	②		
8	1	中間試験	試験	②		
9	2	医療事故予防のためのアサーティブ能力 ロールプレイ	講義・演習	①		
10	2	リスクセンストレーニング	演習	①		
11	2	転倒転落防止・誤薬防止対策 針刺し事故防止・事故後の対応	講義	①		
12	2	転倒転落防止対策・誤薬防止対策シミュレーション	演習	②		
13	2	放射線被ばく防止・リスクの大きい薬剤の暴露防止策	講義・演習	②		
14	2	医療機器(輸液ポンプ・シリンジポンプ)操作及び管理	演習	②		
15	2	実習時に起こりやすい事故事例	GW	②		
16	1	終了試験	試験	②		
評価方法	終了試験の成績(①・②の合計点)及び授業参加・発表態度・課題レポート・GW成果物で総合的に評価する					
評価基準	60点以上で合格 60点未満の場合は再試験(1回のみ)					
テキスト	系統別看護学講座 専門分野 看護の統合と実践[2]医療安全 医学書院 川村 治子著：医療安全ワークブック 医学書院					

分野	専門分野	単位数	1	時間数	30
授業科目	看護の統合と実践Ⅰ（看護技術の活用と応用）	学年時期	2年次後期		
担当講師	専任教員（看護師：臨床実務経験あり）				
(実務経験)	専任教員（看護師：臨床実務経験あり）				
科目目標	紙上事例（基礎看護学方法論Ⅵと共通事例）を通して、日常生活援助技術と診療の補助技術を活用、応用するための看護実践能力を習得する。				
回数	時間	授業内容	授業方法	担当講師	
1	2	看護の統合と実践Ⅰの授業ガイダンス 事例の看護援助を考える	講義	専任教員	
2	2	誤薬防止を考えた麻薬管理 (対象の段階や状況変化に応じた援助を考える)	講義演習	専任教員	
3	2	麻薬管理(与薬)の実際（医療安全の視点を踏まえて考える）	演習	専任教員	
4	2	シミュレーション事前準備	講義	専任教員	
5	2	関連図作成	演習	専任教員	
6	2	シミュレーション演習（事例：大腸癌患者）	演習	専任教員	
7	2	①トイレ移乗		専任教員	
8	2	終了試験・まとめ	試験	専任教員	
9	2	ガイダンス（術後患者事例を活用） 事例の確認、術後の観察のポイントの復習	講義	専任教員	
10	2	術後1日目の援助の計画(VS測定全身状態の観察、早期離床)	講義演習	専任教員	
11	2	術後患者のドレーン管理、創傷管理、DVT予防（弾性ストッキング装着） 医療安全の視点を踏まえて考える	演習	専任教員	
12	2	シミュレーション演習（事例：胃癌患者）	演習	専任教員	
13	2	①術後1日目の全身状態の観察		専任教員	
14	2	シミュレーション演習（離床の援助）	演習	専任教員	
15	2	終了試験・まとめ	試験	専任教員	
評価方法	終了試験 50%				
	演習への参加度及び評価表等提出物の総合評価 50%				
評価基準	60点以上で合格 60点未満の場合は再試験(1回のみ)				
テキスト 参考文献	系統看護学講座 専門分野 成人看護学 [5] 消化器 医学書院				
	系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 医学書院 他				
	根拠と事故防止からみた 基礎・臨床看護技術第3版 医学書院				
備考	模擬患者事例(基礎看護学方法論Ⅵの事例)を用いて、これまでに学んだ知識・技術をもとに組み合わせた技術を応用した演習やシミュレーションを行うことで、情報収集、状況判断、問題解決、倫理判断、リスクマネジメントなどの看護実践能力を高め				

分野	専門分野	単位数	1	時間数	30
授業科目	看護の統合と実践Ⅱ（看護実践と問題解決）	学年時期	3年次 後期		
担当講師 (実務経験)	専任教員（看護師：臨床実務経験あり） 専任教員（看護師：臨床実務経験あり）				
科目目標	自己の看護技術の習得状況を評価し、看護技術における課題を明確にした上で事故防止のための知識を統合したアセスメント力、実践力の向上につなげる。また複数患者・多重課題の解決のための適切な判断および対処について考えることができる。				
回数	時間	授業内容	授業方法	担当講師	
1	2	各実習で体験した内容をチェックし、「看護技術経験表」の到達度に基づき自己の演習計画を立案・実施・自己評価	演習	専任教員	
2	2	複数患者の情報収集管理・1日のスケジュールの立て方・多重課題への対処・報告と連携			
3	2	複数患者の情報収集管理・1日のスケジュールの立て方・多重課題への対処・報告と連携	講義演習	専任教員	
4	2	注射の実施(点滴注射セッティング・輸液ポンプ使用含む)演習	演習	専任教員	
5	2				
6	2	模擬患者事例A(術後患者)・B(呼吸器or循環器系疾患患者)に必要な看護技術を抽出し、事例をイメージしながらシミュレーション	演習	専任教員	
7	2				
8	2	模擬患者事例A・Bへの優先順位を考えた実践演習 1-①患者A(術後1日目)のバイタルサイン測定・観察後初回歩行	演習	専任教員	
9	2	1-②①を実施中に患者B(入院5日目)からナースコールで症状悪化の訴え			
10	2	2-①患者B(入院10日目)点滴静脈内注射の追加準備中			
11	2	2-②患者A(術後6日目)トイレ歩行後状態悪化 *グループ内で事前に実習行動計画を考え場面1・2をローテーション			
12	2	実施後の評価・考察まで考える(「統合実習行動計画及び実習記録」を使用)			
13	2	前回演習の動画を確認しながらリフレクション	演習	専任教員	
14	2	多重課題シチュエーション(人工呼吸器装着患者、気管内吸引、生体監視モニター装着患者)	講義・演習	専任教員	
15	2	まとめ 終了試験		専任教員	
評価方法	終了試験 50% 演習への参加度及び評価表等提出物の総合評価 50%				
評価基準	60点以上で合格 60点未満の場合は再試験(1回のみ)				
テキスト及び参考文献	系統看護学講座 専門分野 成人看護学 [5] 消化器 医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学 [2] 呼吸器 医学書院 他 竹尾恵子監修：看護技術プラクティス 第4版 学研				
備考	模擬患者事例(基礎看護学方法論Ⅵの事例)を用いて、これまでに学んだ知識・技術をもとに組み合わせた技術を応用した演習やシミュレーションを行うことで、情報収集能力、状況判断能力、問題解決能力、倫理判断能力、リスクマネジメント能力を高め				